

一九九八年九月

飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(三)

奈良国立文化財研究所



(S=4/5)

刻入  
林

田  
評  
米

亦  
金  
成  
日  
浩  
裕  
遠

法  
業  
於  
本  
僧  
心

上  
的  
業  
心  
世  
心

大  
助  
帶  
師  
如

道  
出  
天  
元  
丸

天白

三

天

天

天

天

天

天

天

天

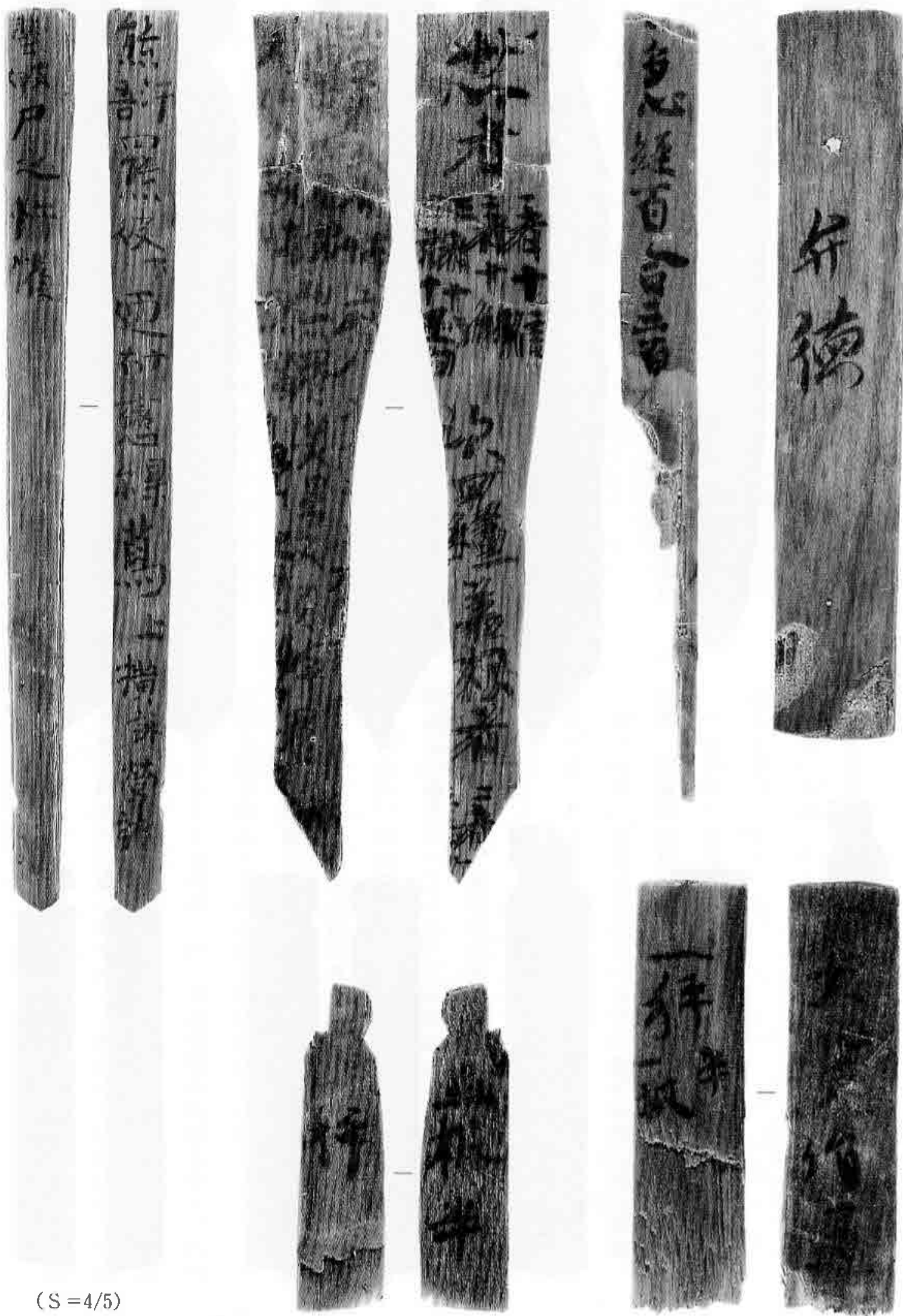
其人向易米其其

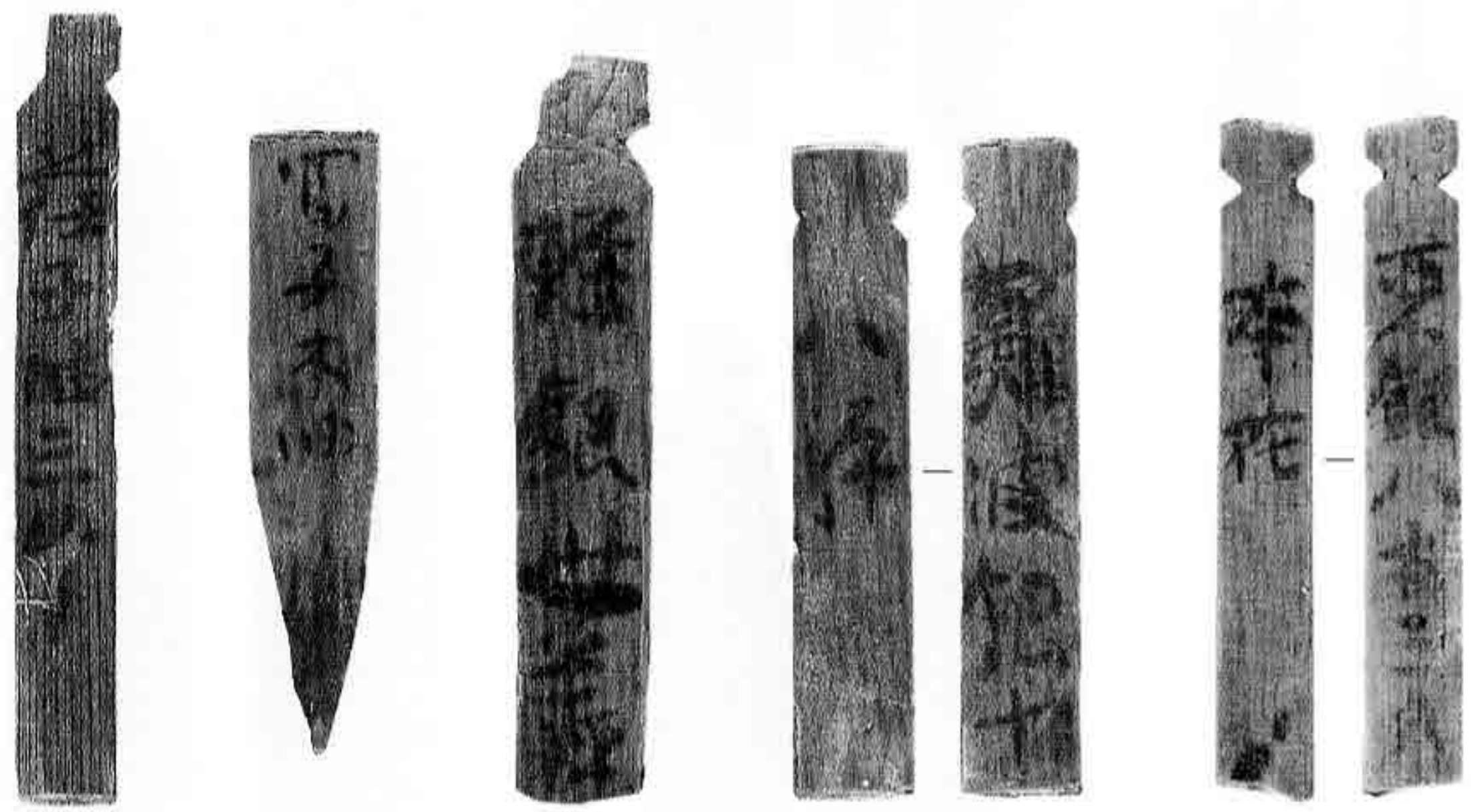
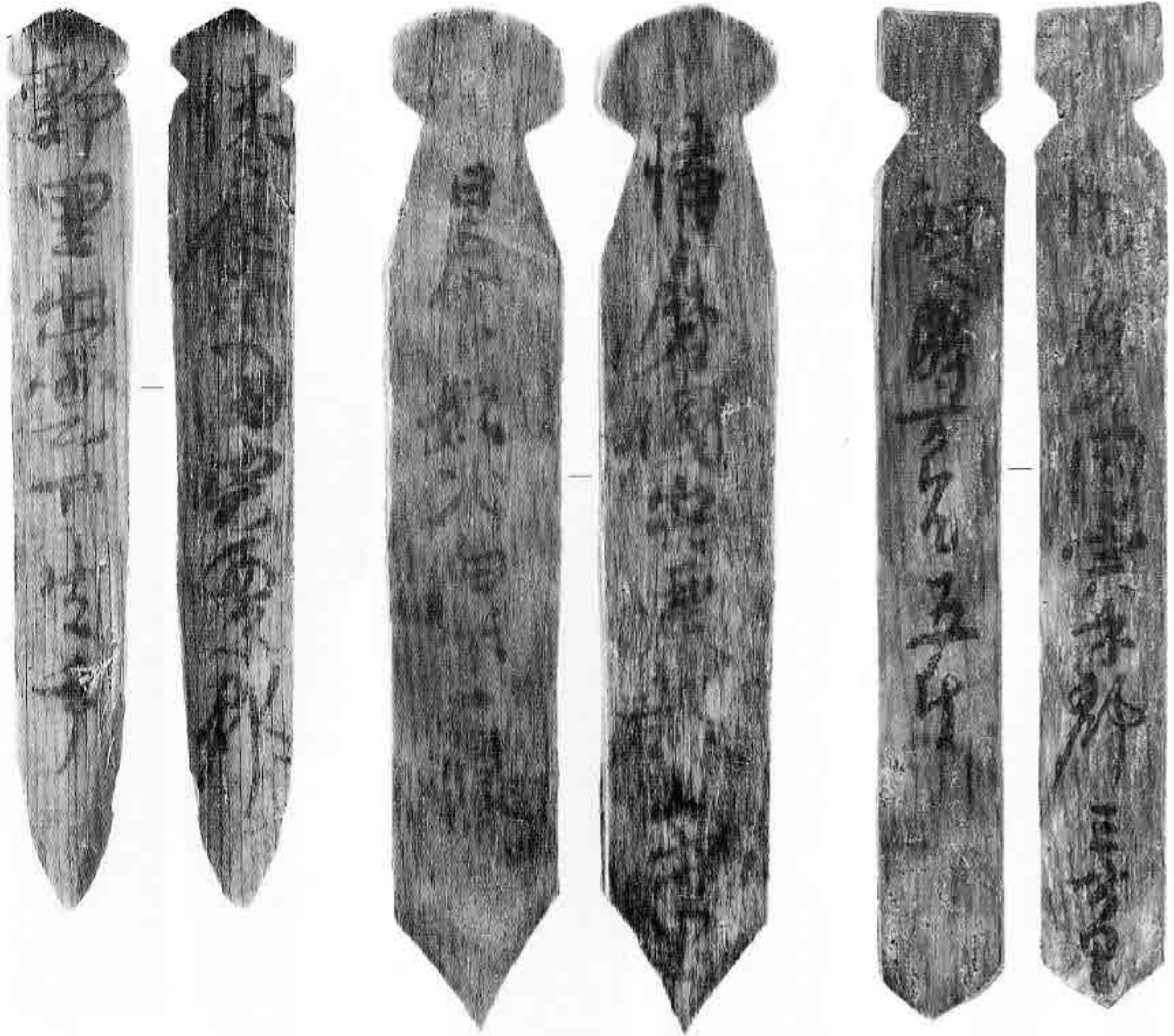
白墨... 其其

... 其其

... 其其

... 其其





この概報には、さきに刊行した『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十二)』(一九九六年六月)以後、飛鳥藤原宮跡発掘調査部の行った発掘調査で出土した木簡のうち、主要なものを収録した。木簡が出土したのは、藤原宮第八二次、飛鳥藤原第八五、八三一七、八四次の各調査においてである。

木簡の出土地点と出土状況について略述し、のち釈文をかかげる。なお、遺構の詳細については当該年度の『奈良国立文化財研究所年報』を参照されたい。

## 一、木簡出土の地点と出土状況

藤原宮第八二次調査(西方官衙南地区、5AJL区)

一九九六年一〇月～九七年二月

道路造成に伴う事前調査であり、調査面積は一八〇〇㎡である。調査区は藤原宮の西面南門の北東に位置し、前回報告した第八〇次調査区の西にあたる。これまでの周辺に

おける調査では、藤原宮期の遺構の他に、藤原宮直前期の宮内先行道路、さらに下層には弥生・古墳時代の遺構が重複して検出されている。

今回検出した遺構は①古墳時代、②藤原宮直前期～藤原宮期、③藤原宮期以降に大別される。

②の時期の遺構は宮内先行条坊に属する西二坊坊間路、五条大路、およびそれらの側溝などがある。西二坊坊間路は、以前に北方の調査で検出しているが、今回は南北八六m分を確認した。道路の規模は路面幅で五・四～六・五m、側溝心間で六・二～六・八mである。五条大路は、その北側溝を西二坊坊間路西側溝との合流点から西六m分を検出したが、南側溝は発掘区外となる。なお、五条大路の幅については、東の第八〇次調査で、路面幅約七・五m、側溝心間で約八・五mという数値を得ている。

木簡が出土したのは、西二坊坊間路東側溝SD三二〇六からである。SD三二〇六は、溝幅が約一m、深さは発掘区北端で約一・二mと最も深く、南にゆくにしたがって浅くなる。溝内の土層は、上半部が青灰色ないし灰褐色の砂



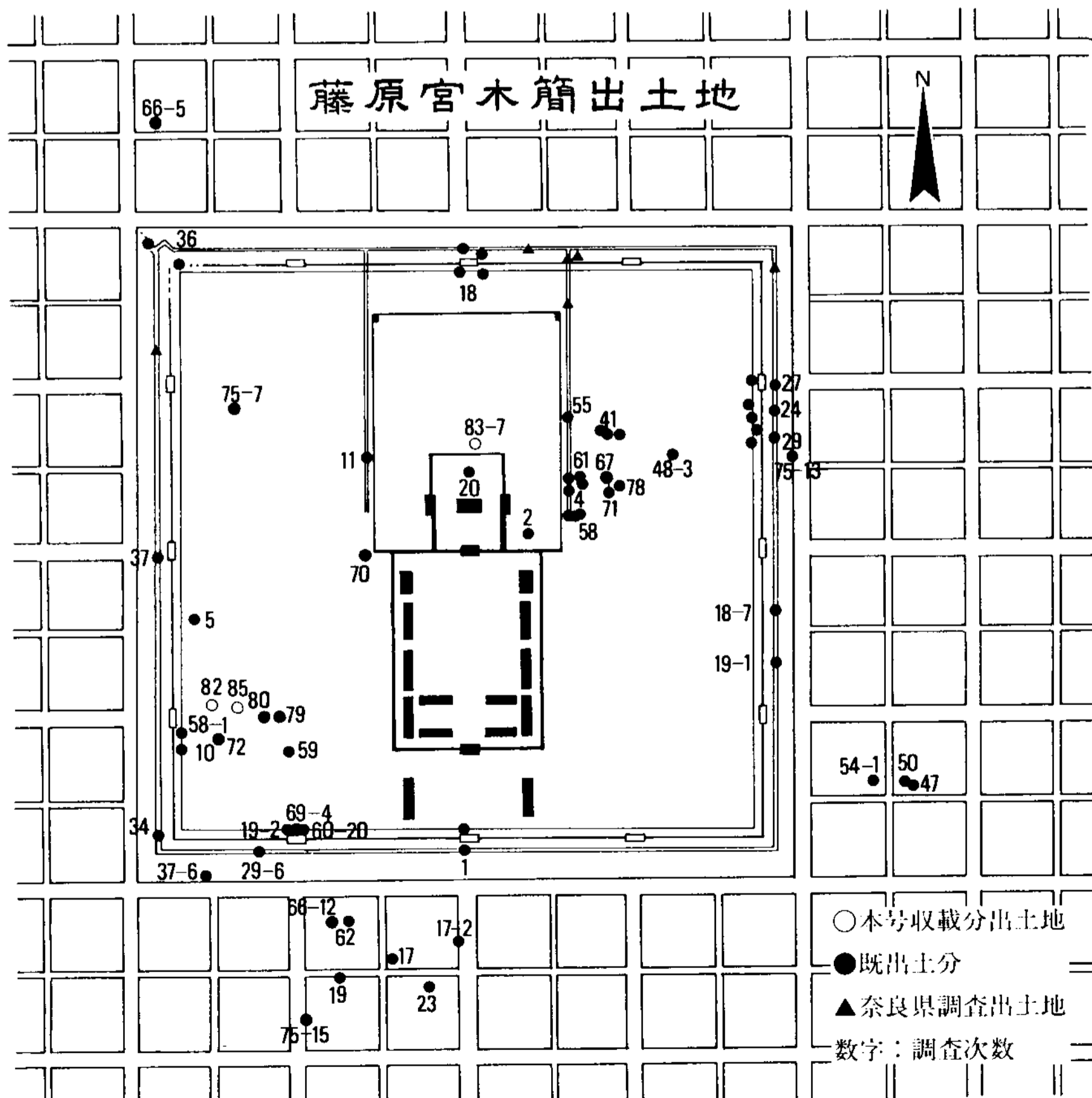
質土で、堅くしまっており、溝の埋め立て土と推定した。下半部は、細砂混じりの青灰色ないし暗灰色の粘質土で、流水時の堆積である。木簡は、SD三二〇六の発掘区北端付近で、溝底に近い暗灰色粘質土から一点出土した。同層からの伴出遺物には、藤原宮直前期に属する土師器と須恵器がある。

飛鳥藤原第八五次調査（西方官衙南地区、5AJL区）

一九九七年四月～六月

集合住宅建設に伴う調査で、前述した第八二次調査区の東に位置する。調査面積七〇〇㎡である。遺構面は三層あり、上層は藤原宮期以降、中層は弥生～古墳時代、下層は弥生時代である。上層の遺構は比較的疎らであり、調査としては、中層で検出した水田遺構や下層の弥生集落である四分遺跡が注目されるが、ここではふれない。

木簡は上層で検出した近世の土坑SK八八二一から一点出土したのみである。



飛鳥藤原第八三一七次調査（内裏地区、5AJF区）

一九九七年一〇月

池護岸工事に伴う調査。大極殿院と内裏の境界部分にあたる醍醐池南岸の護岸工事で、発掘面積は一八六㎡である。

検出したおもな遺構は、藤原宮直前期の遺構として、先行朱雀大路の東側溝、その東を北流する南北大溝SD一九〇一Aがあり、藤原宮期のものとして、二条の掘立柱東西塀などがある。

木簡が出土したのは南北大溝SD一九〇一Aからである。これまでの調査によって、SD一九〇一Aは宮中心部を南北に縦貫する水路で、藤原宮造営の資材運搬のための運河と考えている。今回は南北約一〇m分を検出した。溝幅五m、深さ一・六mあり、溝内は四層に大別される。下二層は堆積土、上二層は藤原宮造営にあたって埋め立てた整地土と判断した。木簡はこの溝の最下層から一点出土したが、断片であり釈読できない。

藤原宮期の二条の東西溝は、内裏内郭の南限を区画する塀である可能性が高く、今後の周辺の調査に期待したい。

飛鳥藤原第八四次調査（飛鳥池遺跡、5BAS区）

一九九七年一月～十一月

万葉ミュージアム建設に伴う調査。一九九一年度に調査し、七～八世紀初の金属・ガラス工房跡などが確認された。飛鳥池遺跡の北、飛鳥寺東南隅の南に位置する。発掘面積約三〇〇〇㎡である。

木簡出土遺構は多岐にわたり、現在なお遺構・遺物ともに検討中であるため、以下の遺構概要あるいは木簡点数などのデータは今後とも変動する。したがって、詳細については次年度以降に刊行予定の正報告に譲り、ここでは現段階で一応の検討が済んだ遺構についての概要を述べるにとどめる。

遺構毎の木簡点数は次の通りである。

土坑SK一〇	二一四〇点
方形池SG三〇	一点
方形池外側の整地土・土坑群	一六点
南北溝SD〇一	一一八〇点
南北溝SD〇五	三四五〇点

土坑SK二六 七〇〇点

土坑SK二八 六点

井戸SE四二 一点

東西溝SD二〇 一点

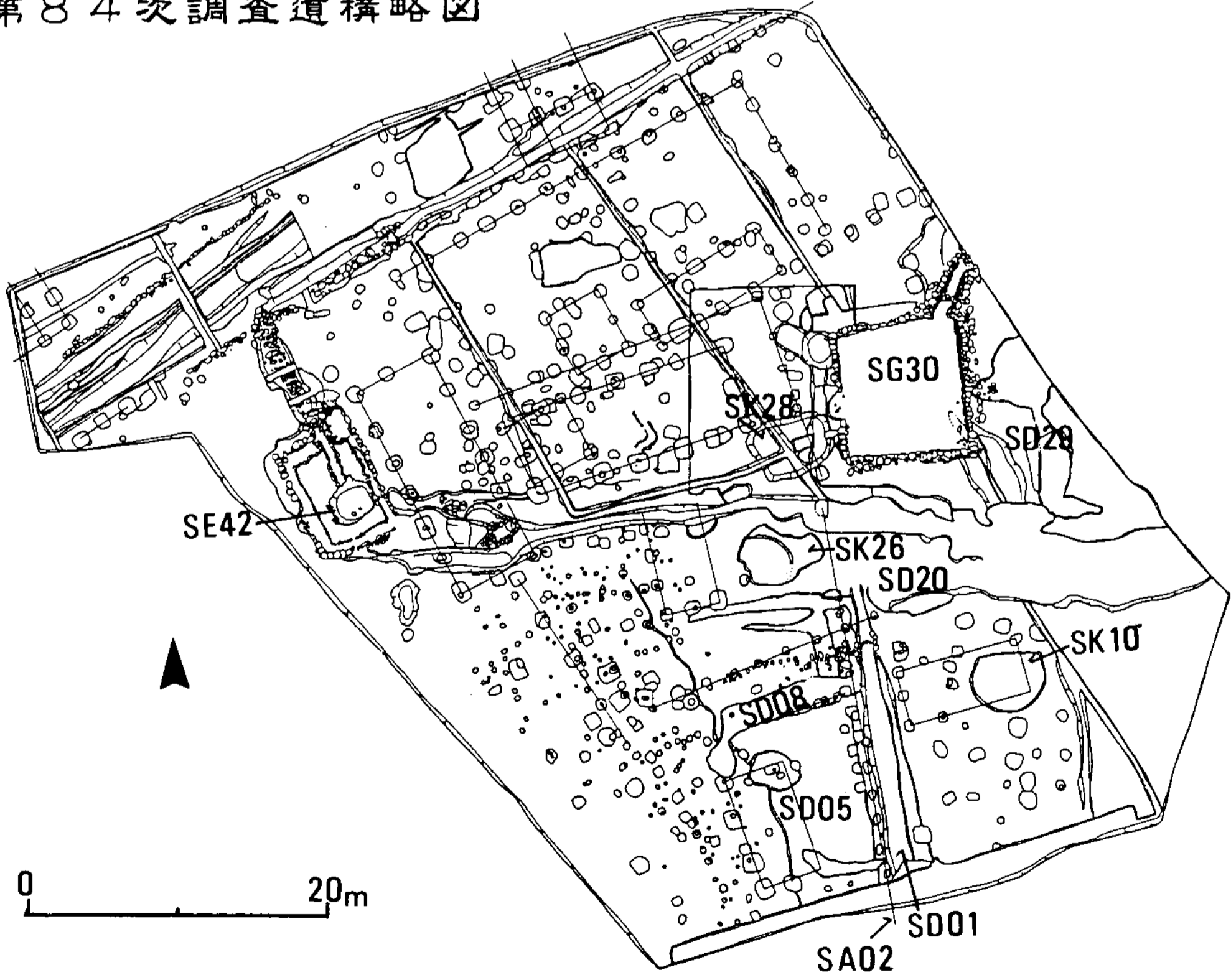
東西溝SD〇八 一点

南北溝SD二九 一点

SK一〇は、調査区東南部で検出した素掘りの土坑である。東西五・二m、南北四mの楕円形で、深さ一・七mある。堆積土は三層に大別され、このうち上層の木屑層を中心に出土した。年紀をもつ木簡は一点もないが、「粒評石見里」の表記からみて、七世紀末（天武朝末年以後か）の年代が与えられる。

SG三〇は、調査区東辺で検出した方形の石組池である。平面規模は底面で、東西七・九m、南北八・六m。池の四周は急傾斜の玉石積で、その最も高く残っている部分では八段、高さが一・六mある。池の東辺は一度改修されており、石積の裏側に当初の石積が残る。池底には拳大の石を敷いていたと推定するが、現在残っている範囲はそれほど

第84次調査遺構略図



広くはない。

池の導水路は、当初は西南隅に注ぐ南北溝SDO一であったが、奈良時代以降は池の東南隅に注ぐ南北溝SD二九にかわっている。排水路は、池の東北隅にある石積の水路であり、そこから北へ排水した。

池は七世紀後半に造られ、奈良時代まで存続したか。木簡は池底近くの堆積土と池を埋めた埋土からあわせて一一点が出土した。

また、この池の周囲の整地土や大小の土坑群からあわせて一六点の木簡が出土した。それらの遺構の年代などは検討中である。

SDO一は、素掘りの南北溝で、北流し、方形池SG三〇に注ぐ。方形池より南約一二mの位置に石組の護岸をともなう堰があり、このあたりでは溝幅約一m、深さ〇・五mであるが、そこから南に向かって溝の規模が大きくなり、調査区南端では幅約三m、深さ約一mとなる。堰より南の溝底には木屑層が分厚く堆積し、大量の木簡が出土した。年紀を記すのは、「丁丑年」のみで、天武六年（六七七）

にあたる。

SDO一の西側には平行して掘立柱の南北塀SAO二があり、それを挟んでさらに西を平行して流れる南北溝がSDO五である。

SDO五は、溝幅が六〇七m、深さ〇・七〇一mあり、やはり北流し、方形池の西をさらに北へ伸びる。しかし、そこでは遺構と重複するため、方形池より南の部分を掘り下げた。木簡や削屑を大量に含む腐植土層を何層も挟んで比較的短期間のうちに埋め立てられた。年紀を記すのは、「庚午年」「丙子年」「丁丑年」の三点である。「庚午年」は天智九年（六七〇）、「丙子年」は天武五年（六七六）にあたる。

これらのSDO一、SAO二、SDO五は調査区中央部にあたる谷を埋め立てた一連の工事と見られる。まず、最も低い部分に南北塀SAO二をたてて基壇状の高まりを作り、これと平行して二条の南北溝を掘り、その南北溝をつなぐように木樋暗渠を埋め込む。SDO一には堰を設け、西からその堰へ往復するために、SDO五をまたぐ形で踏

石列なども同時に作っている。おそらく、SDO一の流路の先にあたる方形池SG三〇も同じ時に造営されたのであろう。

SDO一とSDO五が埋められた時期は、両溝出土遺物からみて、一応持統朝頃と考えている。ただし、木簡は両溝の下層から出土しており、木簡に見えるサトの表記がいずれも「五十戸」となっていて、「里」という木簡が一点もないことは重要で、あるいは木簡に関しては天武朝におさまるかも知れない。

SK二六は、東西六・五m、南北四mの不整形土坑で、南西部の東西二m南北二・五mの範囲が一段深い。最も深いところで遺構面から一・四mある。埋土は三層に大別される。木簡はこのうち第二層を中心に出土した。この土坑は南北溝SDO五と重複する位置にあり、溝の埋土を切つて掘り込まれている。この土坑からも年紀を記す木簡がないが、荷札木簡にみえる地名表記がいずれも「国・郡・里」となっているから、大宝元年（七〇一）から霊龜三年（七一七）の間の年代である。

土坑SK二八は、方形池SG三〇の西南にある平面形が長方形をした土坑である。南北約四m、東西四・五m以上、深さ一・三mである。この埋土から木簡六点が出土した。

井戸SE四二は、井戸の周囲に石敷と排水路をもち、東西六m、南北八・五mの規模である。井戸枠は二段で構成され、下段は長さ一四〇cm、断面一六cm×二〇cmの角扇状の細長い材を内法径一mとなるように円形にたて並べる。この上に土居桁を組み、束を立てて、その外側に横板を貼って上段の枠としている。横板は、高さ五〇cm前後、厚さ四cmの板材で、長さは東・西辺の板が一三八cm前後、南・北辺のそれは一五〇cm前後である。このうち西辺の横板は扉板を転用したもので、そこに墨書が残っていた。井戸としての年代は藤原宮期く奈良時代末ないし平安初期と見ている。

## 二、凡例

(一) 木簡は出土遺構ごとに掲げ、同一遺構の中では、内容分類によって、文書、付札、その他の順に配列することを原則とした。

(二) 釈文の漢字は現行常用字体に改めたが、一部の文字については正字体・異体字を使用したものがある。

(三) 釈文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位ミリメートル)。欠損しているもの及び二次的加工を受けているものは現存部分の法量を括弧つきで示した。法量下の数字は型式番号・最下段には出土地区を示した。型式番号は次の通り。

011型式 長方形の材(方頭・圭頭などもこれに含める)のもの。

015型式 長方形の材の側面に穴を穿ったもの。

019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は011・032・051型式のいずれかと推定される。

021型式 小型矩形のもの。

022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

023型式 小型矩形で、左右に切り込みをもつもの。

031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。

032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。

033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。

039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は031・032・033型式のいずれかと推定される。

041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。

049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。

051型式 長方形の材の下端を尖らせたもの。

059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は033・051型式のいずれかと推定される。

061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

091型式 削屑。

(四) 本文に加えた符号は次の通りである。

・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

○ 木簡の上端もしくは下端に孔が穿たれていることを示す。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□ □ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□ □ 記載内容からみて、上または下に一字以上の文字を推定したもの。但し削屑については煩雑になるので、この記号は省略した。

■ ■ ■ 抹消により判読が困難なもの。

々々々 抹消した文字の字画が明らかな場合に限り、原字の左傍に付した。

「 」 異筆、追筆。

「 」 合点。

カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。

ママ 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

⋮ 同一木簡と推定されるが直接つながらず、中間の一字以上が不明なもの。

「×」 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所

の左傍に・を付し原字を右傍に示した。

「」 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

(五) 釈文の出土地点の下に付した\*は、口絵図版に写真を掲げた木簡を示す。\*1は図版1に対応する。

本書の編集は寺崎保広が担当した。釈読は寺崎・宮川伴子が行ない、堀裕・竹内亮・吉江崇氏の助力を得た。写真は井上直夫・中村一郎の撮影による。

三、木簡釈文

飛鳥藤原第八四次 (5BAS)

藤原宮第八二次 (5AJL)

土坑SK一〇

南北溝SD三三〇六

・恐々敬申 院堂童子大人身病得侍

・故万病膏神明膏右□一受給申

願惠  
知事

309.31.3 011 NJ30

〔知夫利力〕

□□評由羅五十戸

加□□加伊□□

〔鮮力〕

192.33.4 031 CM19

大徳御前頓首□

(167).(36).7 039 NJ30 \*1

飛鳥藤原第八五次 (5AJL)

・世牟止言而□

□本止 飛鳥寺

・□□□□

(75).(22).3 019 NJ30 \*1

土坑SK八八二一

大和国高市

池田武市□

〔朗力〕

・□月卅日智調師入坐糸卅六斤半

山中□ □

□〔出力〕

137.70.13 011 DP15

・又十一月十二日糸十斤出

受申□□

(286).(28).3 081 NJ30 \*1



□□「下力」  
□□系十六斤受 (215).(17).2 081 NJ30

浄足和□「沓力」  
□光明明明明 (225).14.4 081 NJ30

・粒評石見□「里力」

禮論語禮□禮 (92).(19).1 081 NJ30

・□ □ (106).26.3 039 NJ30

禅院 091 NJ30

□□「禅師力」  
□□「□□」 (95).(16).1 081 NJ30

□□□記 廿八日下俵□「開力」  
□九斗 091 NJ30

・太  □

・「太  」 (裏面は刻線)  
214.28.2 051 NJ30

六月米一□「斗力」  
七月斗五升 091 NJ30

・□千字文□「勅員外力」  
□□□□

・□ □ □ (128).(11).5 081 NJ30

又瓦七□七□「十力」  
091 NJ30

大夫 觀勒□ (131).(39).(10) 065 NJ30

□□「日力」  
□女瓦百枚□□□「四日力」  
091 NJ30

□□八男瓦百五十枚

091 NJ30

右郎子

(205).(21).7 081 NQ34

女瓦□

□女瓦七十七□

091 NJ30

・勝勝勝勝勝母勝

・□  
〔盈力〕

264.36.10 011 NQ34

方形池SG三〇

方形池外側の整地土

・ □不不 惠惠不不不道道等 角末呂本  
及及及及及 亦亦亦□□末呂 角末呂

・ □不能食欲白  
・ 惠伊支比乃

(87).25.3 019 NQ35

・ □□ 我我□我我□□□我□ 357.52.10 061(箱側板) N031

方形池外側の土坑群

〔軍力〕  
□布廿斤

(64).(23).2 039 NP31

・ 南 請葛城明日沙弥一人

□尔者瘡

(62).24.3 081 N033

・ 「天天天天天天□天天」

252.25.3 065 NP34 \*1

・今有時氣

・使人友足

(87).22.4 019 NN35

・前頓〔首力〕

・故上

(77+106).27.3 019 NK33

・寺主

・欲賜〔等力〕

(98).24.5 081 NN35

・冊心者

一者十信  
二者十解  
三者十句  
四者十句向  
〔廻力〕

次四種善根者

一  
二者  
三者

南北溝SDO一

〔智力〕

・照師前謹白昔日所

・白法華經本借而

〔賜力〕

223.20.3 011 NI33 \*2

・大德〔前力〕

・用可

(74).(20).5 081 NJ33

比丘者〔死力〕者怖魔

〔向東死力〕

・者初阿羅漢又百体羅

〔者力〕

仏入怖

(185).(29).2 065 NK33 \*5

○二月生九日浩裕法師

(重ね書き)

(235).(20).11 081 NK33 \*2

〔恐々力〕

・謹啓

・

(88).(17).5 081 NJ33

・□多心経百合三百「□□」

・十一□ 「□□」 (162).15.3 081 NJ33 \*5

「倪麻力」  
□□大法師俵 121.22.3 031 NG33

此者牛働在 115.21.5 032 NJ33 \*3

・丁丑年十二月三野国刀支評次米

・甘草一両 豉一升 惠奈五十戸造 阿利麻 春人服部枚布五斗俵 151.28.4 032 NJ33 \*2

・桂心二両 □ □ (129).(17).4 081 NK33

「間力」  
□□部五十戸俵七斗 (127).23.4 033 NH33

「賢力」  
□□聖僧銀□□

・三絶鎮 (57).(11).2 039 NJ33 「古力」  
□□五十戸□□□□「七升力」 (119).28.3 032 NK33

・大僧六十并并

・米分并院四并 □□ (94).21.3 019 NK33 「呂力」  
□□戸年六十一老夫丁初□□□□「作力」 (138).11.2 081 NJ33

・純泰十五 阿□

□□ (65).(15).3 081 NJ33 金屑 (88).20.8 081 NJ33

結「鞍」「九」  
□骨九□  
「骨」

□張皮文 (90).28.4 081 NJ33

止求止佐田目手「和力」  
□□□□

□久於母閉皮 (103).(16).3 081 NJ33

大飛鳥飛鳥鳥

□□ (117).33.2 065 NI33

道道□天无无

天師常師師□  
天師常師師□  
115.(25).5 081 NK33 \*2

見見母母母母母

尔見百惠惠見 (155).12.3 059 NJ33

南北溝SDO五

小升三升大「師力」借用 又三升  
□□□□

又五月廿八日飢 六月七日飢者下俵二  
者賜大俵一道性 受者道性女人賜一俵 (表と天地逆)  
(190).29.3 019 NK35 \*4

師啓奉布一机

今借賜啓奉□□ 153.16.2 051 NH34

「東南力」  
□□房僧□□三□前慈「師力」  
□□ 206.22.5 011 NK36

・十月上半理充「唯那力」  
□□

・為食

172.22.2 011 NJ35

・大師入絹一匹

・一秤半  
一杓

(90).23.3 019 NH34 \* 5

丁丑年十二月次米三野国

加尔評久々利五十戸人

物部 古麻里

146.31.4 031 NH34 \* 3

・五杓半

・秤

68.18.4 032 NG34 \* 5

経借同日

112.35.8 011 NL35

・「悪力」  
□銀八両三分

・本在

85.12.4 032 NL35 \* 6

・「軽寺」<sup>マ</sup>波若寺 洗尻寺 日置寺 春日部 矢口

石上寺 立部 山本平君 龍門 吉野

・軽銀卅一半秤

94.17.3 032 NK35 \* 6

・「□□□並並並並」

(203).36.9 081 NJ36 \* 4

・難波銀十

・四杓半秤「□」

・八秤

81.15.3 032 NL35 \* 9

・三杓得針□□

96.14.4 032 NH34

・七月元僧

・□□ 82.13.2 032 NH34

次評 上部五十戸巷宜部

□□□軍布□□ 168.27.5 031 NL34  
【刀由弥力】

・仏法分中【切力】□□

・□□ (73).15.2 032 NL34

・□我評高殿

・秦人虎 (73).18.3 019 NJ36

・○経蔵【益力】□□

・三間評 小豆 □□ (134).21.5 032 NL35 \* 3

・○□□ 105.(18).8 011 NJ36

・□野評【佐力】□野五十□

・五斗 (86).18.2 081 NL34

・陽沐戸海部佐流

・調 152.19.5 031 NL37 \* 3

・弥奈部下五十戸 131.23.7 032 NJ36

・尾張海評□□五【十戸力】□□ (127).22.2 032 NK36

・加□五十戸秦人□□ 148.(22).3 033 NJ36

・次評 (81).16.3 039 NK36

三枝部赤男鯛

123.21.3 032 NF34 \* ㊦

仏麻油一甕

144.24.4 051 NL34 \* ㊦

庚午年三〇

(77).20.4 019 NK36

富子木油

80.16.3 051 NK36 \* ㊦

丙子鋤代四杓

荏子油三斗

100.8.3 032 NK35 \* ㊦

□代□□尺四杓  
「二匹力」

114.23.4 032 NK36

四月二日

天□ □

72.16.6 032 NK36

大苜被四副  
「菩薩」

長十尋一被

(80).16.4 039 NL34

四月廿一日

□□□□□  
「米二升力」

91.14.3 032 NK36

糞迦伯綿

□九斤

(96).15.5 032 NL35 \* ㊦

四月廿七日

四□

(97).13.3 039 NK36

桑根白皮

129.24.3 032 NJ36

伊支須

98.27.5 032 NJ36

三月廿五日

85.15.5 032 NK36



○弁徳 152.27.3 011 NL35 \*5

・推位「讓」  
□□□□

○覺道 (110).24.5 011 NH34

・「舊海鹹河淡」  
□□□□□□ (右側面)

・道侃法師 道侃 □□

・□□□□□□□□ (左側面) (156).24.(10) 011 NJ36

・卅五文 ~~~~~ (202).18.11 019 NK36

・「千力」  
□□字文勅員□  
□□□□「□」 (183).26.6 019 NI34

天皇聚「露力」  
□弘寅□ (118).(19).3 081 NL36 \*3

・石奈之乃

・白馬鳴向山 欲其上草食  
・女人向男咲 相遊其下也

・□□□□「斯力」 (87).19.4 039 NJ36

213.24.11 011 NL35 \*4

□越越遠遠菌菌菌 (213).20.8 019 NJ36

・觀世音經卷

・子曰学□□是是

・身身身羅身聞問身身

・支為□支照而為 (左側面) 145.(21).20 011 NK36

・身身身天天是 (左側面) (173).(23).13 081 NI34

大徳前 (54).(14).6 081 NL35

・播磨国宍粟郡山守里  
・日奉部奴比白米一俵 165.28.5 033 NL35 \*9

〔大徳カ〕〔須 有故紙 紙カ〕  
□□前白□□用所□□□□二三□

・□□□□□□□□□□自出□□事  
〔乃君カ〕〔法 日カ〕〔思カ〕 (270).17.6 019 NL35

・播磨国宍禾郡三方里  
・神人□万呂五斗  
〔時カ〕 158.20.6 033 NM35 \*9

・真二升〔針カ〕間二升□ (126).22.3 019 NL35

・黒□二升□末呂二升□ (126).22.3 019 NL35  
・宍粟郡三方里

八月廿日奉上□ (142).29.4 039 NL35  
・神人□□□五斗  
〔部竹カ〕 (128).17.2 039 NL35

・播磨国宍粟郡

・郡山守里穴毛知俵 147.28.7 032 NM35  
・野里出雲部生手 144.21.5 033 NL35 \*9

芹□五十戸栗田部三山

159.28.3 033 NL35

井戸SE四二

宗加部里人宗加部真知

190.19.2 051 NL35

□

「飛力」  
□ □

□加部里吉多真留俵

(189).19.5 059 NL35

依道  
依

在

□

在子

□

(扉板を井戸枠に転用、他に戯画あり)

在□

1380.440.42 061 NN45

・熊汗 熊彼<sub>下</sub> 通<sub>ナ</sub> 恋<sub>尔</sub> □

葛<sub>上</sub> 横 詠 宮詠

・蜚<sub>伊皮</sub> 尸之忤懼

187.15.5 051 NL35 \*5

東西溝SD二〇

説成成 □  
説説説

92.35.37 065 NL35

「月力」  
□魚切里人 大伴部□□  
尔支米廿斤

(211).30.5 059 NL32

・我我我我我 □

・□并三并二 □

(81).(14).1 081 NL35